

横手の城下町

横手城展望台からは、烏海山と横手の街並みが見渡せる。この展望台は 1965 年に建設されたものだが、もともとの城郭は 16 世紀後半、戦国大名の領有権争いの時代にさかのぼる。

横手は、小野寺家の支配下に置かれた城下町となり、小野寺家は横手城を居城として横手を統治した。17 世紀初頭、小野寺家は誤って徳川将軍家と敵対し、西日本に追放された。その後、横手城とその領地は大名の佐竹氏に与えられた。

佐竹氏は横手城を支配していたが、大名自身はそこに住むことはなかった。代わりに、近くの久保田（現在の秋田市）に住み、横手城は城の番人（城代）を務めた身分の高い家臣の管理下に置いた。城代は横手川を中心に都市開発のための工事を始めた。17 世紀末には、横手川の片側の城下には家臣だけが住み、その反対側には商人や職人が住むようになり、街は拡大していった。

徳川の時代（1603-1867）の終盤である幕末の戊辰戦争で横手城は破壊され、その残骸を利用して、佐竹氏の初代と最後の大名が祀られている秋田神社が建立された。城跡は 1902 年に公園として整備された。